

2020年9月5日マレーシア国営テレビ-SOCSO リハビリテーション センター

全ての疾患には、治療する術がある。全ての怪我には回復させる術がある。

レポーターの、Nor Sharfinaz Sari は、マラッカにある従業員向けの社会保障機構が運営する SOCSO(現地語で PERKESO)リハビリテーション センターにて、どのようなサービスや支援が行われているのか、実際に見てまいりました。

本センターでは患者の社会復帰を支援するべく、理学療法、作業療法、生活療法、言語聴覚療法及び、ロボットによる治療法が行われております。特に、日本の先端技術である Hybrid Assistive Limb (HAL)をはじめとする洗練された器具の数々が、麻痺患者の回復を助けております。

こちらのセンターでは、従業員向けの社会保障機構に加入している、ガン、脳卒中、交通事故などを患った患者がマレーシア全土から集まってきます。患者は、身体機能や、言語聴覚機能が回復し、仕事に復帰できるようになるまで、本センターでの治療を無料で受けることができます。

本日に至るまで当センターを訪れた 5800 名の患者のうち、高度な治療プログラムにより無事退院することができた患者は 5200 名となっております。

SOCSO の最高経営責任者である Dr Mohamad Azman Aziz Mohamad 氏はこう述べます。「我々のセンターの誇るべき技術の一つであり、その活用を積極的に推進しているのが、CYBERDYNE のロボット治療です。この日本発の技術により、脊髄損傷や脳卒中を患った患者の回復、自立、そして再び自分で歩けるようにすることを支援しているのです。」

また患者はそれ以外にも縫い物をしたり、パンを焼いたり、電話の修理をしたりなど、実践的なトレーニングを通じて、職場や生活への復帰を目指すことができます。

Azmi Hashim 氏は次のように述べました。「ここには様々な施設があり、多様なトレーニングや恩恵を受けることができます。このセンターに来た時、私は車椅子に乗っていましたが、わずか2週間で杖をつけば、一人で歩けるようになりました。」

別の患者である HaoSze Wu 氏からはこのような話を聞きました。「センターは私たちに自信と、再び生きる勇気をくれます。来た当初は、一人でできることは限られていました。長らくベッドの上で過ごしていたので、身体がすっかり弱っていま

したが、一人で車椅子に座ることや、一人で着替えることを少しずつ学んでいき、強くなっていきました。」

また、別の患者の Rody Sophian Joeseh はこう言いました。「最初に来たときは、足がとても弱くなっており、感覚も麻痺していました。立ち上がる時は、腕を精一杯使って立ち上がる必要がありました。ただ、セラピストの方々の指導の下、このセンターで数ヶ月過ごす内に、改善の兆しが見えてきました。」

施設のスタッフの一人である Abd Razak Nawli 氏はこう言います。「力強さ、希望、自分の未来と向き合う決意。そして何より重要なのは再び働けるようになることです。それを支援すべく、世界基準の施設を揃えました。」

センターは宿泊施設も併設しており、一度に 350 名の入院患者を受け入れることが可能です。あらゆる専門家からなる 190 名のスタッフが、最高の治療プログラムを行えるよう取り組んでおります。

ご覧の通り、当センターの施設は障がいを持った、多くの患者さんの機能を改善し、あるべき日常に復帰させるサポートを行なっていました。傘の用意は、雨が降る前に。そのために、今後も SOCSO への支援を続けていきたいと思います。